

AGIBOT JAPAN

AGIBOT G2

次世代産業向けヒューマノイドロボット

人間と同じ空間で、人間と同じように『見て、考えて、動く』
高度な演算性能と精密な力制御を統合した、産業向け実行知能
ロボットです。



製品仕様（スペック）



高度な知能と精度を、現場の即戦力に

2070TFLOPSの演算能力とサブミリメートル精度のデュアルアームにより、組立・検査・点検など高い正確性が求められる作業を安定して遂行します。

人に近い全身運動制御と全方向移動により、設備間の移動や狭小空間での作業にも柔軟に対応。-15℃から50℃の過酷な環境にも耐え、人間が困難な現場でも安定稼働が可能。さらに、少数のデモンストレーションで導入可能な学習機構により、工程変更やモデル切替にも迅速に適應します。

G2は、安全性・継続稼働・遠隔運用を前提に設計された、現場の生産性を静かに底上げするパートナーです。



「個」の経験を「群」の知能へ

自律進化するSOP - スケーラブル・オンライン・ポストトレーニング・システム -

稼働すればするほど現場全体の自動化レベルが向上。

G2は日々の作業を通じて自ら学習し、人間の介入によるサポートを受けながら、より複雑で高度なタスクを自律的にこなせるようになります。

リアルタイムな「経験の共有」

複数の場所に配置されたG2たちが、それぞれ異なるタスクから得た成功・失敗の経験を非同期で単一のクラウドにアップロード。クラウド上で賢くなったAIのパラメータは定期的にすべてのロボットに同期されるため、1台のG2の学習がフリート（ロボット群）全体の進化に直結します。

数時間で完了する圧倒的な学習スピード

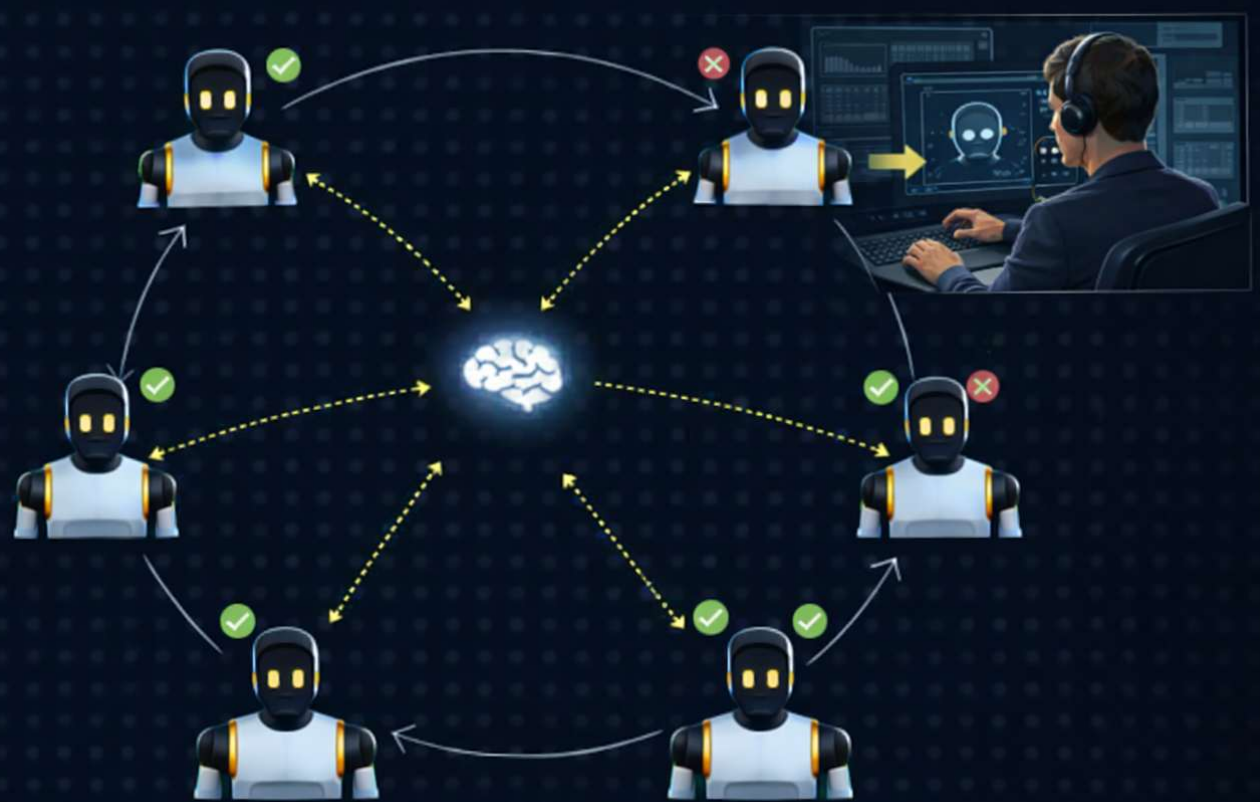
複数のG2による並列処理能力（スループット）を活用することで、時間のかかる複雑なタスクも、わずか数時間で大幅なパフォーマンス向上を実現します。

人間とAIの協調

遠隔オペレーターが必要に応じて介入し、動作を修正。このデータも即座に反映され、学習に活かされます。

汎用性の維持と継続的進化

特定のタスクに特化しすぎる（過学習）ことなく、汎用性を維持したまま性能を向上させることが可能。未知の環境やタスクにも対応し続ける高い信頼性を確保しています。



※画像はイメージです。

現場別活用シーン



物流(アパレルなど)

不定形物操作と環境適応

形状が異なる衣類をリアルタイム認識し折りたたみます。荷崩れ等の変化にも動作計画を再計算して対応します。

また、両腕の協調動作により、梱包資材の段ボール等の立体化（組立）も可能です。



製造(食品など)

デリケートな食材のハンドリング

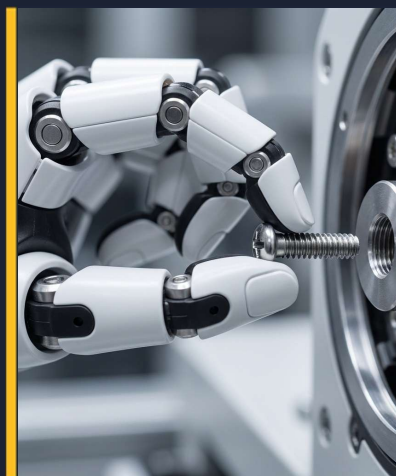
スキルハンド（オプション）と各関節のトルクセンサーの制御により、対象物の硬さに応じて力をミリ単位で調整。卵の殻を割らずに運び、パンを潰さず掴む。人間にしかできなかった「感触を頼りにした作業」を再現します。



商業施設(スーパーなど)

VLAモデルによる高度認識

パッケージの文字や形状を VLA（Vision Language Action）モデルで理解。乱雑に置かれた商品でも認識し、指定された棚のカテゴリへ整列陳列します。



製造(自動車など)

精密組立と自律嵌合

部品組立時、わずかに手首を振動させたり位置をずらしたりして位置を探る「ならい動作」を自律的に行い、RAM基板の挿入や自動車部品のネジ締め等をサブミリ精度で再現します。



現場の常識を塗り替える「未来の労働力」

01



PRESENT

現場を支える「確かな即戦力」

定型作業の自動化と現場への即時適応

現在は自動車・電子機器の製造や物流現場を中心に導入が進んでいます。最大2070TFLOPSの演算性能と世界初の「十字型手首力制御」により、卵を割らずに掴むような繊細な作業や、サブミリ単位の精密な部品挿入・ネジ締めを自動化しています。RL強化学習（RLツールチェーン）により、わずかなデモンストレーションで新しい作業を習得できるため、現場の「即戦力」としてすでに確固たる地位を築いています。

02



FEW YEARS

柔軟な「知能」による業務拡大

非定型タスクの習得とサービス領域への進出

蓄積されたデータと生成AIの進化により、例外対応が必要な「判断業務」へと適応範囲が広がります。複数人との同時会話やナレッジベース（RAG）を活用した高度な案内業務に加え、調理補助や複雑な機器メンテナンス、介護支援といった現場での即興的な判断が求められる領域へ拡大。

人手不足が深刻なサービス分野において、人間と肩を並べて働く「頼れるパートナー」へと進化します。

03



FUTURE VISION

社会を支える「基本インフラ」へ

汎用ヒト型ロボットによる人類の可能性の解放

人間と全く同じツールやインフラを使いこなし、災害救助や宇宙開発など、人間にとって危険な環境下での完全な代替作業としての地位を確立します。ロボット自らが最適な作業手順を考案し、社会基盤の一部として常時稼働する存在へ。

G2は、労働の概念そのものを再定義し、人間を単純作業から解放して、より創造的な活動へ集中できる「未来を切り拓くパートナー」となります。

※画像はイメージです。